

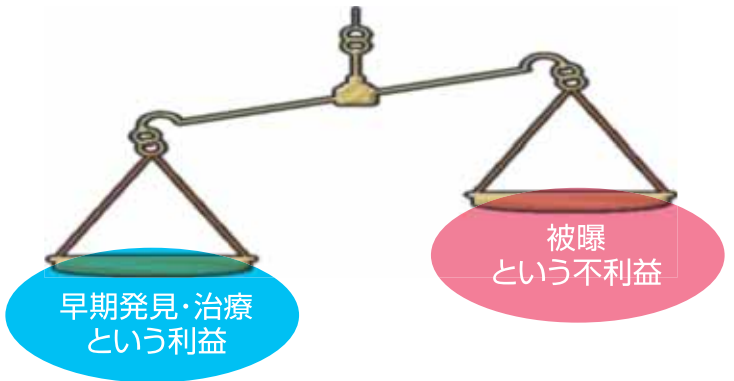
放射線検査で 使用する放射線って どんなもの？



放射線科 主任 梶谷 俊孝

病院で受ける放射線検査に危険はないでしょうか？

放射線を用いる診断は非常に広く行われています。通常の放射線検査では、発がんの危険性は小さく、一般の事象のリスク（例えば喫煙や交通事故など）に比べても小さいことがわかっています。また医学における放射線検査では検査を受ける本人が直接利益をえることとなりますので、それとのバランスを考えると検査を受けることがずっと得になります。



当院では患者さまのリスク軽減のため、カセット型 DR を導入して、低被曝で高画質な画像が提供できる一般撮影画像装置、また、一般的な CT 装置と比べて半分以下の被曝で検査を行うことができる機構を備えた低被曝 CT を導入して、患者さまに優しい検査に努めています。

放射線とは…

放射線には色々な種類がありますが、病院で検査に使用する放射線は X 線と呼ばれるものです。家電製品（携帯電話・電子レンジ・IH 調理器など…）からも電磁波はでています。

放射線と放射能の違いは…

放射能とは、放射線を出す能力を有するものを放射能といいます。通常、レントゲン検査や CT 検査・胃や大腸の検査に使用するのは、放射線になります。

懐中電灯を例にとってみると、光を出す能力がある懐中電灯が放射能で、懐中電灯から出る光は放射線になります。



皆さまご存知でしょうか？

地球で生活する以上、必ず少しの放射線を受け続けています。もし高地で生活すると、宇宙線からの被曝が増えます。(富士山頂では平地の5倍)

外国旅行でジェット機に乗ると、日本とニューヨーク往復で 0.1 ミリシーベルト (mSv) くらいの被曝があります。

自然被曝線量は、日本平均 1.5mSv/年、世界平均 2.4mSv/年とされています。(国によって、自然被曝量が異なります)

●世界の平均自然放射線被曝量 (単位: mSv/年)

- ◎ブラジル(ガラパリ):10
- ◎インド(ケララ):5~10
- ◎中国(陽江):6
- ◎アメリカ(デンバー):4
- ◎イタリア(ローマ):2.2
- ◎イギリス:2.2
- ◎日本:1.5

